

## 10: 悪性リンパ腫(ML)【成人】

### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 鈴木 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
吾郷 浩厚	島根県立中央病院	血液腫瘍科
伊豆津 宏二	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
小川 啓恭	兵庫医科大学病院	血液内科
尾関 和貴	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
賀古 真一	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
加藤 光次	九州大学病院	血液腫瘍内科
加藤 春美	愛知県がんセンター中央病院	血液・細胞療法部
金 成元	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
近藤 英生	岡山大学病院	総合内科
酒井 リカ	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	腫瘍内科
鈴木 律朗	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
田地 浩史	愛知県がんセンター中央病院	血液・細胞療法部
田野崎 隆二	国立がん研究センター 中央病院	輸血療法科
名和 由一郎	愛媛県立中央病院がん治療センター	血液内科
水田 秀一	藤田保健衛生大学病院	血液内科・化学療法科
森島 聡子	藤田保健衛生大学病院	血液内科・化学療法科
森 毅彦	慶應義塾大学病院	血液内科
矢野 真吾	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
横山 寿行	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	血液内科
石田 文宏	信州大学医学部	保健学科 病因・病態検査学
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
池田 宇次	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
坂本 佳奈	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
鈴木 達也	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科
多田 耕平	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
千原 大	MD Anderson Cancer Center	Department of Lymphoma and Myeloma
青木 一成	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学
今田 和典	小倉記念病院	血液内科
高橋 勉	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
三橋 健次郎	東京女子医科大学病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
青木 智広	名古屋大学大学院医学系研究科 分子総合医学専攻 病態内科学講座	血液・腫瘍内科学
神山 祐太郎	東京慈恵会医科大学附属病院	造血細胞治療センター

白鳥 聡一	市立函館病院	血液内科
山崎 聡	独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	血液内科

## 2. 承認研究の進捗状況(2014年1月-12月 ※JSHCT2015を含む)

10-1	「濾胞性リンパ腫の造血幹細胞移植の後方視的研究」 PI:伊豆津宏二
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:
10-2	「悪性リンパ腫自家移植後再発に対する同種移植の有効性の検討 — 一元化データを用いた解析 —」 PI:吾郷浩厚
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:
10-3	「節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型(ENKL)の移植成績」 PI:鈴木律朗
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:
10-4	「リンパ腫の組織型別・病期別移植成績」 PI:伊豆津宏二
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:
10-5	「ホジキンリンパ腫に対する造血幹細胞移植の後方視的検討」 PI:賀古真一
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照)
論文業績:	Kako S, Izutsu K, Kato K, Kim SW, Mori T, Fukuda T, Kobayashi N, Taji H, Hashimoto H, Kondo T, Sakamaki H, Morishima Y, Kato K, Suzuki R, Suzumiya J; Adult Lymphoma Working Group of the Japanese Society for Hematopoietic Cell Transplantation. The role of hematopoietic stem cell transplantation for relapsed and refractory Hodgkin lymphoma. <i>Am J Hematol.</i> 2015;90(2):132-8.
10-6	「移植前B型肝炎、C型肝炎ウイルスの感染状態が悪性リンパ腫の移植成績および有害事象に及ぼす影響」 PI:加藤春美
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:
10-7	「高齢者びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の造血幹細胞移植の後方視的研究」 PI:千原大
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:済(WG研究業績一覧参照)
10-8	「縦隔(胸腺)大細胞型B細胞性リンパ腫に対する造血幹細胞移植の後方視的研究」 PI:近藤英生
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:
10-9	「中枢神経原発リンパ腫に対する造血幹細胞移植の後方視的研究」 PI:近藤英生
学会発表:	済(WG研究業績一覧参照) 論文業績:
10-10	「自家末梢血幹細胞移植前処置が悪性リンパ腫の移植後予後に及ぼす影響に関する研究」 PI:水田秀一
学会発表:	論文業績:
10-11	「血管内大細胞型B細胞リンパ腫における造血幹細胞移植の意義についての検討」 PI:加藤光次
学会発表:	<u>Koji Kato</u> , et al. 血管内大細胞型リンパ腫に対する超大量化学療法併用自家末梢血幹細胞移植の解析。High-dose chemotherapy followed by auto-PBSCT for intravascular large B-cell lymphoma (IVLBCL) 第76回日本血液学会学術集会 2014年10月31日-11月2日、大阪
論文業績:	
10-12	「Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm に対する造血幹細胞移植の後方視的検討」 PI:青木智広
学会発表:	<u>Aoki T</u> , et al. Long-term survival with high-dose chemotherapy followed by autologous stem cell transplantation and allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for patients with blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm: A retrospective registry study from the Japanese Society for Hematopoietic Stem Cell Transplantation. The 56th Annual Meeting of the American Society of Hematology (ASH), December 6-9, 2014, San Francisco, CA.
論文業績:	<u>Aoki T</u> , et al. Long-term survival following autologous and allogeneic stem cell transplantation for blastic

plasmacytoid dendritic cell neoplasm: A retrospective registry study from the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (投稿中)

10-13 「成熟 T 細胞腫瘍に対する同種造血幹細胞移植における前処置強度と予後の関連」 PI: 青木一成

学会発表: Aoki K, et al. Reduced-intensity conditioning of allogeneic transplantation for nodal peripheral T-cell lymphomas. 第 76 回日本血液学会学術集会 2014 年 10 月 31 日-11 月 2 日、大阪

Aoki K, et al. Reduced-intensity conditioning of allogeneic transplantation for nodal peripheral T-cell lymphomas. The 56th Annual Meeting of the American Society of Hematology (ASH), December 6-9, 2014, San Francisco, CA.

論文業績:

10-14 「皮膚原発 T 細胞リンパ腫の造血幹細胞移植の後方視的研究」 PI: 森毅彦

学会発表:

論文業績:

### 3. 会議開催記録(2014 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
平成 26 年 1 月 12 日	国立がん研究センター中央病院	14 名の出席のもと、新規メンバー紹介: 青木一成、青木智広、高橋勉、三橋健次郎、現在までの 11 の研究事項の発表ならびに論文化への報告、新規研究テーマとして、1) 成熟 T 細胞・NK 細胞腫瘍に対する同種造血幹細胞移植(京都大学 青木一成)、2) Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm に対する造血幹細胞移植の後方視的検討(名古屋第二日赤病院 青木智広)、3) Double hit lymphoma, MYC 異常を B-cell lymphoma (島根大学 高橋勉)より提案があり、検討された。
平成 26 年 3 月 7 日	沖縄コンベンションセンター	11 名の出席のもと、1) 成熟 T 細胞腫瘍に対する同種造血幹細胞移植における前処置強度と予後との関連についての議論(京都大学 青木一成)、2) Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm に対する造血幹細胞移植の後方視的検討の進捗状況に関する議論(名古屋第二日赤病院 青木智広)、新規プロトコルの案の提案、本学会で発表する WG 紹介のスライドの報告がされた。

### 4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2014 年 12 月末時点まで)

( 1463 )回

### 5. WG の今後の活動方針・抱負など

2011 年 1 月 15 日に初めての会合を開き、その年の報告書に、“全国の移植医療に携わる方々の努力の結晶である、一元化データを有効に活用し、造血細胞移植医療の向上につながるような成果を出していきたいと思っております。そのためには、本 WG の先生方の協力はもとより、小児の WG の先生方とも協力体制がとれますように努力をしております。また若い先生方が活躍できるような環境をつくって、次世代を担う彼らに引き継ぎたいと考えています。とにかく明るく、楽しく、どんなことでも言えるような WG を作り、多くの成果を発表できるようにしたいと考えています。よろしくお願ひします。”と書きました。4 年間で一部メンバーが変わりましたが、若い先生方が増え現在 36 名です。14 もの研究がされており、また若い先生が幾つかの新しい研究計画をたてています。4 年前に思ったことが、みなさまのおかげで少しはできたことは嬉しい限りです。この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。ただ残念なことは、時間が重なって会合にご参加いただけなかった先生が多数いらっしゃったこと、論文化が少ないこと、そして一度もお返事をいただけなかったメンバーの先生がいっぱいいらっしゃることで。しかし、わたしより適任で、有能な先生に責任者を引き継がせていただきますので、メンバーの先生方がいまより積極的に参加され、リンパ腫に対する造血細胞移植の治療成績が向上すると信じております。